









学びのアップデート

各学校では、Society5.0に向けてICT環境整備と利活用を促進していただいています。学校がパソコンやタブレットを活用した学習活動を滞りなく進めていくためには、各地区や学校の実態に応じて、早い時期から構想を練って、できることから計画的に取り組んでいくことが重要です。

新型コロナウイルス感染症が再び拡大する今日、WITH コロナ、ポストコロナにおけるオンラインを活用した学びとして、第1号でも紹介した「今後のオンラインを活用した教育活動の例について」(資料1)を再掲します。これまで、第2号では「7 長期休業中や放課後の講習・補習での動画配信(オンデマンド)」、第3号では、児童・生徒一人一台体制でなくてもできる1~4の「学校から離れた場所にいる講師や参加者をオンラインでつなぐ教育活動」、第4号では「6 オンラインによる児童・生徒との連絡、相談」の実践事例を紹介してきました。

本号では、「8 自宅で動画を視聴し学校で意見交換をする授業」について、オンラインを活用して家庭で個別に動画を視聴し、学校でプリント課題や実験、演習問題を行った都立高校の事例を紹介します。

資料1 今後のオンラインを活用した教育活動の例について

<p>1 外部講師による授業</p> 	<p>5 課題(webテスト、プリント他)の配信と回収、感想や質問等のフィードバックと回答</p> 
<p>2 他校との合同授業</p> 	<p>6 オンラインによる児童・生徒との連絡、相談</p> 
<p>3 オンラインによる学習発表会</p> 	<p>7 長期休業中や放課後の講習・補習での動画配信(オンデマンド)</p> 
<p>4 オンラインによる保護者会や学校説明会</p> 	<p>8 自宅で動画を視聴し学校で意見交換をする授業</p> 

1~4は児童・生徒一人一台体制でなくてもできること

5~8は児童・生徒一人一台常時接続体制でできること

※一人一台常時接続体制では、授業の中で5ができるようになることが大切です。なぜなら、授業が教師から児童・生徒への一方向型から双方向型になるとともに、配信するものや配信のタイミングを変えるだけで、様々な学習活動に取り入れることができるからです。

今後のオンラインを活用した教育活動の例について

8 自宅で動画を視聴し学校で意見交換をする授業



都立向丘高等学校の事例 「対面学習を充実させる反転授業」

都立向丘高等学校は、Society5.0に向けた学習方法研究校として、「BYOD*」を取り入れた一人一台のICT環境で、学校での「対面学習」とオンラインを活用した「個別学習」を組み合わせた「ハイブリッド型」の授業を取り入れています。

物理では、事前に家庭で動画を視聴してきた生徒は、プリント課題又は実験課題から、視聴していない生徒は講義(動画視聴)からスタートします。四つのエリアにそれぞれ課題が設定され、課題を終えると次のエリアの席に移動する授業を行いました。

*BYOD (Bring Your Own Device) : 生徒所有のICT機器を学校の授業等で利用するもの



生徒は教え合い学び合いながら、個々の進度に合わせて課題に取り組み、主体的・対話的学びが活発に行われました。教師は机間指導で生徒の学習状況の把握や個々の生徒にアドバイスする時間が増え、よりきめ細かい個別指導が可能になりました。

WITH コロナ、ポストコロナにおいて、対面学習とオンラインを活用した個別学習を組み合わせたハイブリッドな学びによる、個別最適な学びと協働的な学びが注目されています。家庭では、動画を見たり調べたり振り返ったりして予習・復習を行います。学校での対面学習では、家庭での個別学習を生かし、発表や実験、意見交換等を行うことにより、学びの質を高めています。